

令和2年度 第12回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会 場 令和3年3月11日（木）午後7時00分～8時00分 Web会議

出席者 谷部議長、松本副議長、稲垣委員、指田委員、二ノ宮リム委員、
信國委員、吉村委員

欠席者 小原委員、齋藤委員、濱田委員

事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

資料1 第5回市民のニーズを活かすつなげるあきしま会議まとめ

資料2 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会次第

- ・昭島市月間行事予定表（3月）
- ・とうきょうの地域教育 NO.142
- ・あきしまの教育 第103号

2 議 題

（1）令和3年度昭島市小学生国内交流事業運営委員の推薦について

※推薦者の決定（稲垣委員、吉村委員）

3 協 議

（1）市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について（資料1）

委 員 私のグループでは、自分自身のネットの環境が悪く、ビデオなしの第1報告を聞かせていただいた。第1グループはパソコンに慣れている人が多かった。将棋の方の報告は、大変前向きだという印象。将棋のサロンを立ち上げる際に、シニアだけの将棋にしたいと考え、お子さんやその保護者の参加を大切にされているとわかった。また、TwitterなどのSNSの発信も、グループのお子さんの保護者の方にやっていただくなど工夫しながら活用されているようだ。パソコンの会の方は、報告資料もしっかり書かれており、前回のあきしま会議のご参加からの問題点などにも触れられていた。今の課題として、仲間づくりを意識されているようだった。それ以外にも、継続して学べる場をつくっていくことも考えておられるようだった。

委 員 初めて参加したこともあり、ファシリテーターの支援が難しかった。長く昭島に住んでいるが、こうして活動の話を聴けたことは新鮮だった。昭島にもたくさんの活動があり、いろいろなことを考えて活動されているということがよくわかった。

委 員 ボーイスカウトと児童合唱団のお話を聴いた。子供たちを対象として活動している団体で、活動内容は全く異なる団体だが共通するところがあった。例えば、自分たちが経験してきた楽しい経験を、今の子供たちに同じように楽しいこととして伝えたり、自分たちが指導する立場になったとき、自分たちも楽しんで指導したりなど、子供たちの活

躍しやすいような環境をどちらも持っているところだ。コロナ禍での活動については、ボーイスカウトでは、基本的には野外活動の自粛をしているが、主に低学年の子供たちには近くの公園で短時間の活動をしたり、児童合唱団では、全員が集まってやるのが難しいので、パートごとに練習したり、かなり広い会場が取れた時には、自分たちで考案したマスクを着用して練習するなど工夫しながら練習を重ね、全日本合唱連盟主催の「2021 こどもコーラス・オンラインフェスティバル」（令和3年3月28日）への出演が決まったとのことだった。活動に制約のある中で、自分たちのできる範囲での活動を切らずにやってきたことが、結果に結び付いている。同じグループの聴き手の方も、子供たち対象の活動では活動場所の確保や集うことについて参考になったそうだ。

委員 あきしま会議の参加は2回目で、前は報告をした。今回オンラインの開催ということで緊張したが、みなさんととてもよく話をされていて、やってよかったと思った。どちらも子供たちを中心にした長きにわたる活動だが、関わる大人たちも大変楽しんでいるように思った。合唱団は単独のグループなのでコロナ禍でも多少の自由がきくが、ボーイスカウトは大きな組織に属した団体なので活動に制限がかかるなど、メリットとデメリットを感じた。どちらも年上の人が年下の人の面倒を見るような感じで、とてもいいと思った。オンラインを活用したあきしま会議の開催は、外に出にくい人にとっては良い形だと思った。

委員 社会福祉協議会の職員の方から、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターのお話を聞いた。初めて聴くお話だった。3名で市内全域を担当されているということだ。そのお仕事に誇りをもって取り組んでいらっしゃることやコロナ禍でなかなか難しいこともあるということだった。特にサロンの話を中心になったが、参加していた中学生が前に参加したあきしま会議で知り合った子ども食堂とのかかわりで、告知やお弁当配付の手伝いをされているそうなのだが、彼はたまたまあきしま会議でサロンのことを知ったが、サロンの情報が若者に届いていない、学校を通じて告知されることもないということ話をされていた。ほかの方からもサロンについて、誰がやっているのか、何をやっているのか、自分がそこに行ってもよいのかなどわからないので、情報や活動のネットワークがあるとよいという話になった。川遊びの会の方は、川遊びでは特に危険に備えて接触が必要なので、コロナ禍では活動が難しいこと、その中でも大人の魚釣り教室や家族ごとの水遊びのプログラムを作るなど工夫されていた。今後については、自然体験を活発にするために、川の駅構想や自転車での多摩川ツアーなども考えていきたいとのことだった。お話を伺いながら、社会教育の活動として、社会教育委員として、こうした活動をどうサポートしていけるのかなど考えるきっかけになった。ちょうど昭島市で子育てをしている方々から焚火ができる場所、花火ができる場所が限られているがどこでできるのかなど話題が出たことを思い出し、自然体験遊びができる場所や、マナーや危険安全対策を発信できるあきしま自然マップのようなものができればいいのではと思った。全体的に中学生3人参加していたが、みんな非常に楽しかったと言っていた。中学生がオンラインで会議に参加もすることも普段はないし、地域の皆さんと話せる機会もないが、こうした場を中学生も楽しいと思うのだなと思った。たぶんそういうことが楽しいと思える子は他にもたくさんいると思う。普段の彼らの様子を見ている

と、中高生がこういうことに興味はないだろうと思いがちだが、そうでもない。もっと若者に広げていけたらと思う。

委員 報告者が1名になってしまったので、おひとりの方の報告をじっくり聞いた。発達に偏りのある子の居場所づくりだけでなく、彼らを支える保護者の方々のつながりをつくる場についてのお話だった。小学校の校区単位での地域でのつながりをつくるにあたって、遊び場所が確保できない子供たちの居場所づくりや、通級等の関係で自分が住んでいる地域の小学校へ通えない子供たちが、自分の住んでいる地域でのつながりをつくるという意味で有意義な活動だと感じた。普段は市立会館で活動しているが、コロナ禍でできなくなり、相談の個別対応などを検討されているとのことだった。ただ、単に居場所だというと不要不急のように捉えられてしまうが、支援級に進むかどうか、高校の選択をどうするか、療育を受けるかどうかなど、その選択は子供個人にとっては今決める必要があるものであり、子供の一生を決めるという意味で決して不要不急ではない。けれども対面での活動ができないという点で難しさがあるようだ。子育ての経験者も集まって、その場では単に答えを求められているわけではなく、共感によって心をほぐしているということも聞かせていただいた。中学生の方からは、オンラインはやむを得ない手段だが、オンラインにすることで参加しやすい人もいるのなら、この状況が落ち着いた後もこの方法を残していくといいのではないかという意見があり、プラス思考でいい考え方だと思った。

議長 14年もひとつの活動をされていることが素晴らしい。その原点は何かと尋ねると、人と接することが好きなのだという答えが返ってきた。自分でできることは何でもやるが、この活動を今後広く展開することは考えていないということで、覚悟の仕方が素晴らしいと思った。今後、様々な情報発信のツールを使っていきたいとのことだった。私はオンライン会議もやってよかったと感じている。これからもうまく活用していきたい。全体的には、対面のほうがいいと感じる部分もたくさんあるが、オンラインでもやれると確信した。

事務局 報告をされたある方は、コロナ禍でなにも活動していないという状況だったのだが、今回参加されて刺激を受け、活動の再開に向けた動きをしたいと思われたそうだ。今回オンラインならではのトラブルもあったが、総勢30名の参加があった。ご協力に感謝したい。改めてコロナ禍での活動を振り返り、何ができるか検討できればと考えている。

4 報 告

(1) 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について(2/16 書面審議) (資料2)

※事務局より、配付資料の説明。特に総会議案書(案)について

次回

4月22日(木) 午後7時より 301 会議室+Web 会議

5月27日(木) 午後7時より 205 会議室+Web 会議